

Industry
Dialogue
Society Environment Economy
Connected World
Resilience Relationship
Global SDGs IoT
Economy
AI
Industry
Mobility Support
Safety Culture
Manufacturing
Smart Agriculture
IoT
Clean Energy
Dialogue Environment
SDGs Technology
Society Environment Economy
Interactive Communications
Dialogue
Infrastructure
Safety Culture
Industry
Society
Global History
Economy

吉岐活き 対話型社会

吉岐・粋・好 Society 5.0



— 吉岐市SDGs事業概要 —

壱岐市の概要（交通アクセス・産業等）



- 東京→福岡
飛行機 1時間40分
- 福岡空港→博多港
タクシー 10～15分
- 博多港→壱岐
高速船 65分

※移動時間：約3時間

- 福岡市博多港から 約67km
- フェリー 片道 2,130円
 - ・博多港-郷ノ浦港 約2時間20分
 - ・博多港-芦辺港 約2時間10分
- 高速船 片道 4,300円
 - ・博多港-郷ノ浦港 約1時間10分
 - ・博多港-芦辺港 約1時間5分
 - (フェリー、高速船 1日各4往復)
- 佐賀県唐津港 (1日5往復)
- 長崎空港 (1日2便)

人口：26,070人 世帯数：11,576世帯
 高齢化率：37.4% (R2.3.31現在)
 面積等：南北約17km,東西約15km
 139.42km²

==== 壱岐市の主要産業 =====



農業（畜産）



漁業（海女漁）



商工業（壱岐焼酎）



観光業（辰の島）

吉岐市が抱える問題

【経 済】

一次産業の衰退（労働者の高齡化・後継者不足）

<産業構造>

第一次産業（21%）、第二次産業（15%）、第三次産業（64%）

【社 会】

少子高齡化・人口減少、若年層の島外流出

- ・ 人口：2015年（27,103人）
2030年（20,503人）
- ・ 高齡化率：2015年35.5%
2030年41.9%

【環 境】

エネルギーの啓蒙活動や省エネに対する意識が低い

<再エネの推進>

- ・ 水素、木質バイオマス、焼酎かす等再生可能エネルギーの検討

SDGs (Sustainable Development Goals)

SDGsは、2015年9月の国連サミットで全会一致で採択された。
Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年までを期限とする**17の国際目標**。

- 17の国際目標の下に、169のターゲット、232の指標が決められている。
- 多様性とは：幅広く性質の異なる群が存在すること。性質に類似性のある群が形成される。単純に「いろいろある」とは違う。
- 社会的包摂：社会的に弱い立場にある人々をも含め、市民一人ひとり、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会の一員として取り込み、支え合う考え方。

SDGsの5つの特徴



普遍性 先進国を含め、**全ての国が行動する**

包摂性 人間の安全保障の理念を反映し、「**誰一人取り残さない**」

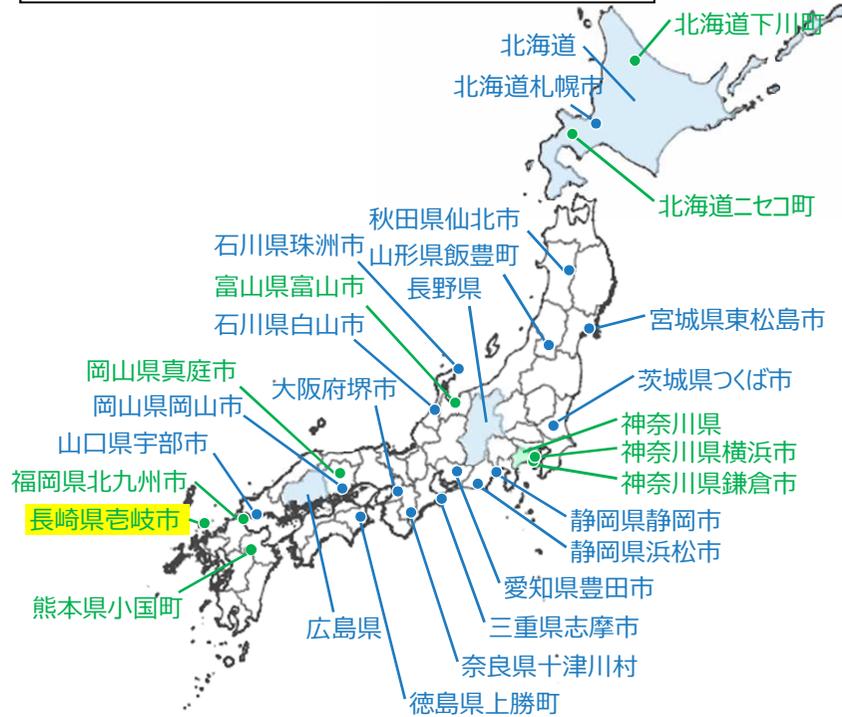
参画型 **全てのステークホルダー**(政府、企業、NGO、有識者等)**が役割を**

統合性 社会・経済・環境は不可分であり、**統合的に取り組む**

透明性 モニタリング指標を定め、**定期的にフォローアップ**

SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業 選定都市一覧

緑字：SDGs未来都市（自治体SDGsモデル事業含む）
 青字：SDGs未来都市
 ※道県が選定されている場合は道県全域を着色。



「SDGs未来都市」選定証授与式（2018.6.15）

	都市名	提案タイトル
自治体SDGsモデル事業含む	北海道二セコ町	環境を生きし、資源、経済が循環する自治のまち「サステナブルタウン二セコ」の構築
	北海道下川町	未来の人と自然へ繋ぐしもかわチャレンジ2030
	神奈川県	いのち輝く神奈川 持続可能な「スマイル100歳社会」の実現
	神奈川県横浜市	SDGs未来都市・横浜 ～「連携」による「大都市モデル」創出～
	神奈川県鎌倉市	持続可能な都市経営「SDGs未来都市かまくら」の創造
	富山県富山市	コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現
	岡山県真庭市	地域エネルギー-自給率100% 2030「SDGs」未来都市真庭の実現 ～永続的に発展する農山村のモデルを目指して（私がわたしらしく生きるまち）～
	福岡県北九州市	北九州市SDGs未来都市
	長崎県壱岐市	壱岐活き対話型社会「壱岐（粋）なSociety5.0」
	熊本県小国町	地熱と森林の恵み、人とのつながりがもたらす持続可能なまちづくりを目指して
SDGs未来都市	北海道	北海道価値を活かした広域SDGsモデルの構築
	北海道札幌市	次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市・「環境首都・SAPP_RO」
	宮城県東松島市	全世代グローバルアップシティ東松島
	秋田県仙北市	IoT・水素エネルギー利用基盤整備事業
	山形県飯豊町	農村計画研究所の再興 『2030年も「日本で最も美しい村」であり続けるために』
	茨城県つくば市	つくばSDGs 未来都市先導プロジェクト
	石川県珠洲市	能登の先端「未来都市」への挑戦
	石川県白山市	白山の恵みを次世代へ贈る「白山SDGs未来都市2030ビジョン」
	長野県	学びと自治の力による「自立・分散型社会の形成」
	静岡県静岡市	「世界に輝く静岡」の実現 静岡市5大構想×SDGs
	静岡県浜松市	浜松が「五十年、八十年先の『世界』を富ます」
	愛知県豊田市	みんながつながる ミライにつながるスマートシティ
	三重県志摩市	持続可能な御食国の創生
	大阪府堺市	「自由と自治の精神を礎に、誰もが健康で活躍する笑顔あふれるまち」
	奈良県十津川村	持続可能な森林保全及び観光振興による十津川村SDGsモデル構想（仮称）
	岡山県岡山市	誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまちおかやまの推進
	広島県	SDGsの達成に向けて平和の活動を生み出す国際平和拠点ひろしまの取組を加速する～マルチステイクホルダー・パートナーシップによるSDGsの取組の強化～
山口県宇部市	「人財が宝」みんなでつくる宇部SDGs推進事業 ～「共存同栄・協同一致」の更なる進化～	
徳島県上勝町	SDGsでSHLs（Sustainable Happy Lives） 持続可能な幸福生活	

2030年 吉岐市のあるべき姿（将来像）

・2000年続く交流・対話の島の歴史を未来へとつなぐとともに、先端技術を積極的に取り入れ、少子高齢化等の社会的課題の解決と基幹産業である1次産業を中心とした経済発展を両立する。

・現実・仮想ともに様々な人や情報につながることで、イノベーションが起これ続け、あらゆる課題に対応できるしなやかな社会を作るとともに、一人一人が快適で活躍できる社会を目指す。

具体的な5つのイメージ

1.1次産業スマートイノベーション

定植から収穫、出荷、販売の流れをシステム化し、IoTおよびAIを使って生産自動化。

2.EVを活用した高齢者の移動サポート・大気汚染の低減

生産物の輸送技術（自動運転）を活用したEV新システムの導入。高齢者はこのEV新システムで元気に市内を移動！大気汚染をなくしクリーンな環境に貢献。

3.若年から高齢まで幅広く交流し、互助関係の確立による安心・安全なまちづくり

交通インフラを整備し、よりよい対話交流活性化。起業経験や将来を見据えた学習成果により、Uターン人材が、遠隔コミュニケーション活用によって島外と連携しながら活躍！

4.クリーンで持続可能なエネルギーづくり

風力エネルギーと蓄電化を推進。木質バイオマスや焼酎かすを使った再生可能エネルギー活用・研究。

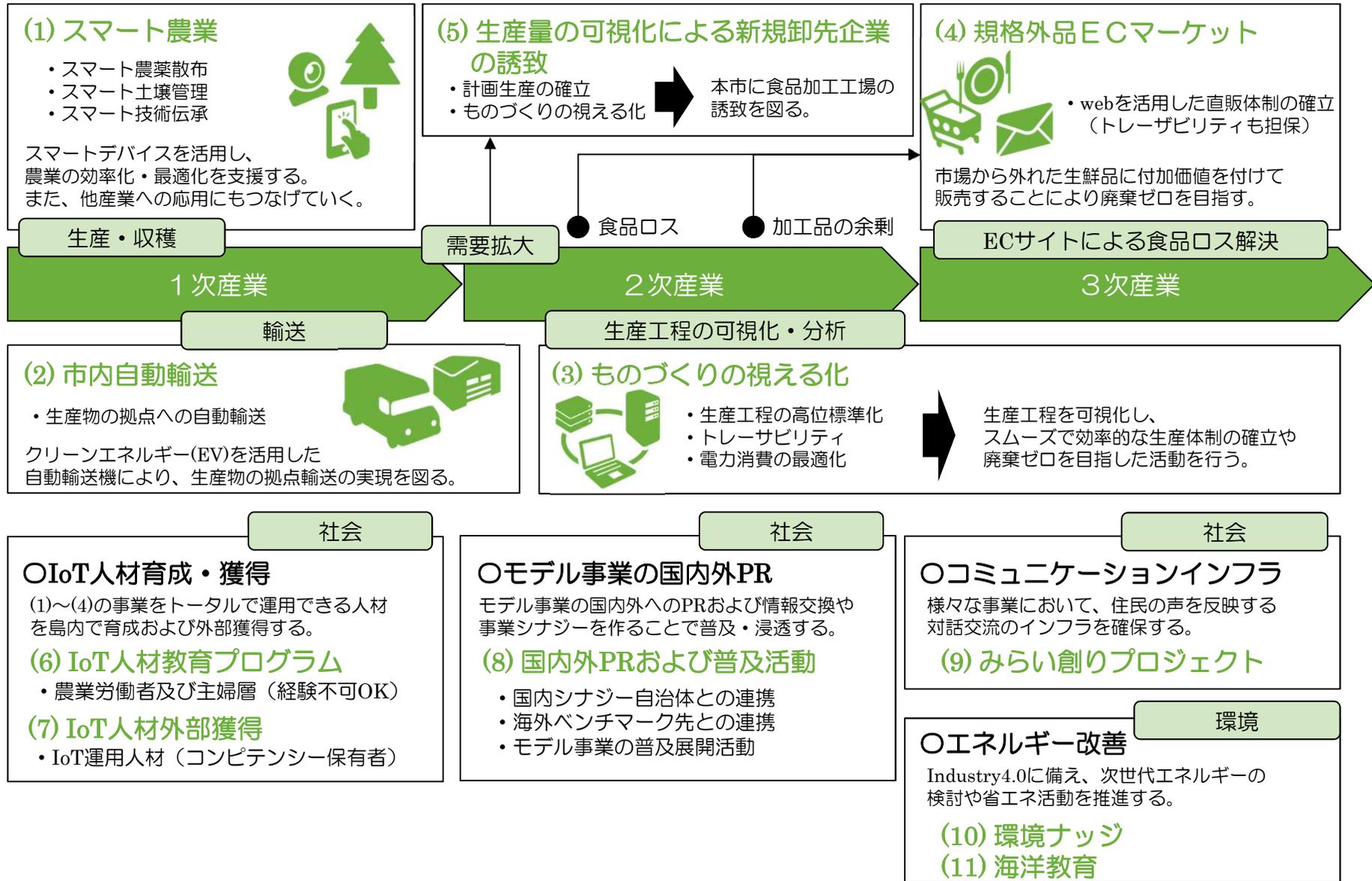
5.外部から多様な知恵を取り込み、進化と変化を恐れない柔軟で強靱な地域づくり

積極的に外部から企業や人材を招聘し、多様な知恵を集めた対話会を起点に、柔軟な環境変化を創出。国境の島として、交流により強靱なまちづくりを進める。

吉崎市SDGsモデル事業（2018年～2020年）

Industry4.0を駆使した新たな6次産業化モデル構築事業

目的：生産から販売まで、各工程でテクノロジーを組み込むことで、2030年にあるべき6次産業の姿を実現する。



壱岐市の海をとりまく現状と取組

1. 磯焼け

(現状) 近年の温暖化の影響により、植食性生物の摂食活動が長期化及び活発化し、海藻の生産量と植食性生物の摂食圧のバランスが崩れ、深刻な磯焼け状態となっている。

(取組)

- ・ 植食性生物の駆除
(駆除・捕獲に対する補助金や潜水士の活用)
- ・ 植食性生物の活用の検討
- ・ 壱岐市磯焼け対策協議会の設立
(藻場造成等の協力体制の構築)

(課題)

- ・ 効率的な植食性生物の駆除
- ・ リモートによる藻場の定期モニタリング



植食性生物 (イソズミ)



植食性生物駆除 (ガンガゼ)

吉岐市の海をとりまく現状と取組

2. 漁業就業者の減少と生活の安定

(現状) 漁業就業者の高齢化と新規就業者の減少により、持続的な漁業生産と漁村活力の維持が困難となっている。理由は、漁船等高額な設備投資、不安定な収入、経験が必要な技術習得が一因と考えられる。

- (取組)**
- ・ 機器導入及び機関換装に対する補助、返済利息の補助
 - ・ 漁獲共済の掛金や漁船保険の補助
 - ・ 新規就業者に対する技術研修期間中の生活費や、漁業資材購入費、免許取得費用の補助
 - ・ 新規就業者確保のための情報発信や漁業体験・研修の実施
 - ・ 島内小中高生に対し、漁業の講話や体験・見学会等の実施
 - ・ 水産物全般（加工品以外）の出荷や原材料の輸送に係る費用の補助

- (課題)**
- ・ 漁業者の所得向上対策
 - ・ 低価格な機器導入
 - ・ データ化した技術伝授
 - ・ 安定的な漁獲高の確保
 - ・ 作業の軽労化
 - ・ 輸送コストの縮減



漁業の講話

壱岐市の海をとりまく現状と取組

3. 資源の確保

- (現状) 近年、資源量の低下が問題となっており、その回復が求められている。
- (取組) ・ 壱岐栽培センターを設立(H21)させ、種苗生産を行い安定供給を図っている。
(現対象：アワビ、赤ウニ、カサゴ、アオナマコ)
- (課題) ・ AI等による安全な種苗生産管理
・ 放流後の追跡調査



壱岐栽培センター



カサゴ種苗放流

4. 海岸海域の監視

- (現状) 海岸海域の環境異変（磯焼け等）や密漁・違反操業に対し、早期に発見するため日常的に監視が必要であるが、大きな負担となっている。
- (取組) ・ 各漁協が行う監視活動に必要な経費の補助
- (課題) ・ リモートによる監視体制の構築